

令和2年度 庄内地域保健医療協議会（地域医療構想調整会議）
議事概要

- ・日時：令和3年3月15日（月）18:30～19:45
- ・場所：WEB 会議（山形県庄内総合支庁 講堂）

1 開 会

2 挨拶（庄内総合支庁保健福祉環境部 貝沼部長）

3 会長・副会長の互選について

委員の互選により、会長に佐藤（顕）委員、副会長に福原委員が選任された。

4 報 告

(1) 在宅医療専門部会検討状況について

事務局から資料1により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

(2) 平成30年度・令和元年度 病床機能報告について

事務局から資料2により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

(3) 医療提供体制に係る制度改正について

事務局から資料3により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

5 協 議

(1) 県内における看取り加算（人生会議の開催含む）等の状況について

事務局から資料4～5により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

(2) 第7次山形県保健医療計画庄内地域編の進捗状況について

事務局から資料6により説明

- 主な意見・質疑等
・資料6の5ページに悪性新生物の粗死亡率が掲載されているが、全国と比べて山

形県は高く、庄内地域は更に高い。悪性新生物の疾患別のデータは把握しているか。疾患別のデータがないと、この地域でどのような対策を行っていくべきかが分からない。データ把握について検討してもらいたい。

- ・山形県の看護師等養成機関の定員は東北6県で最も少ない。全国で見ると5番目か6番目くらいの低さである。特に、県全体では1学年の定員は468人で、うち庄内地域は75人と、人口に比して庄内地域の割合が少ない。これから鶴岡准看護学院が閉校になるため、更に少なくなる。それでも、庄内地域の養成機関は定員割れしているのが現状である。5年後、10年後、庄内地域において看護師不足が医療逼迫につながることを懸念される。一つの対策として、鶴岡・酒田の両看護専門学校が合併すれば、看護教員数の増加により1学年の定員を80人に増やすことができる。行政・地区医師会に検討してもらいたい。
- ⇒・今すぐ答えが出るものではないが、現実の問題である看護師不足への対応について、行政・地区医師会で引き続き検討していったらどうか。

- ・4ページの喫煙率の項目で、実績が掲載されていないが、数字を把握していないのか。
- ⇒（事務局）
- ・喫煙率については、県民健康・栄養調査の項目としているが、4年スパンでの調査であるため、昨年度や一昨年度の数字は把握していない。

- ・4ページの特定健診受診率の項目について、庄内地域では順調に推移していると認識しているか。
 - ・また、特定健診は確かに重要だが、リスクを把握するだけであり、特定保健指導も重要になる。それは目標として掲載されないのか。
- ⇒（事務局）
- ・特定健診受診率について判明しているのは、表に掲載のとおり平成30年度の実績までである。従って、順調に推移しているかどうかについては、まだ評価できない。
 - ・特定健診・特定保健指導について、保健医療計画の策定当初に目標として設定したのは、特定健診受診率である。それゆえ表には特定健診受診率のみ掲載している。

- ・脳血管疾患や心疾患の危険因子となり得る生活習慣病について、予防・重症化予防を進めていかなければならない。その中で、喫煙率を下げていく必要がある。
- ・特定健診実施率・特定保健指導実施率について、国は市町村国保の目標を60%以上と設定している。そのレベルを早くクリアしないと、生活習慣病の予防・重症化予防が進まないのではないかと非常に心配している。健診と保健指導をセット

で捉え、数字をしっかりと把握し、その情報を共有してもらいたい。

- ・重症化予防のプログラムが改訂されると聞いているが、医療提供側と保険者側が連携して重症化予防を進めていく必要があると考えている。

(3) 庄内地域における5疾病5事業及び在宅医療に係る連携体制の変更について 事務局から資料7により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

(4) その他

- ・かかりつけ医の重要性はコロナ禍で一層高まった。特に若い世代の者の多くは、かかりつけ医を持たず、発熱時に相談先がないのが現状である。若い世代の者にも、かかりつけ医を持ってもらうためには、県全体でPRが必要である。コロナ禍で受診控えが進む中で、かかりつけ医を持ってもらうことは一層重要になっている。

⇒・地区医師会では、昨冬、かかりつけ医でのPCR検査体制を整えた。また、今後のワクチン接種に向けて、高齢者はなるべくかかりつけ医で接種できるよう体制を整えている。

⇒・急性期医療から在宅医療への一連の流れを作っていく上では、かかりつけ医が機能を果たすこと、地域住民がかかりつけ医を持つこと、そして、かかりつけ医、あるいは、かかりつけ医機能を持つ病院が、地域を支えるという体制を整えることが重要である。

- ・病床機能ごとの病床数の推移について、令和7年に向けて、病床数の削減、急性期病床の削減が必要ということになっている。しかし、この地域の看護師不足は顕著で、特に回復期・慢性期を担う中小病院で、病床削減を余儀なくされている状況である。この状況を放置していると、急性期機能はこのままで、回復期機能・慢性期機能が弱体化することが予想される。何か県として考えている施策はあるか。

⇒・地域の中でしっかりした体制を作り、検討していく形になると考える。関係者が積極的に発言し、また県が必要な情報を提供し、その中であるべき姿について検討していく必要がある。

⇒・新庄市で看護専門学校を新たに設ける構想があったが、見送られることになった。また、新庄病院の改築が進んでいる。こうした事情が、看護師の需給について、内陸だけでなく庄内地域にも影響を及ぼすことが考えられる。従ってそれぞれの地域だけの問題ではなく、県全体で考えなければならない。県の立ち位置が重要になる。県にはそうした認識を持ってもらいたい。

- ・地域を支える基幹病院が、地域の医療提供体制について、どのような立ち位置を示し、また協力を進めて少ない医療従事者をどう有効活用していくかが重要になる。病院間の交流により新たな展望を示してもらいたい。
- ⇒ ・他の病院とも一緒に協議しながら看護師不足等に対応していく必要がある。

6 その他

(1) 第7次山形県保健医療計画の中間見直しについて

事務局から資料8により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

(2) 新型コロナウイルス感染症の医療提供体制の整備について

事務局から資料9により説明

- 主な意見・質疑等
 - ・庄内地域では、2つの病院でクラスターが発生した際、病院、地区医師会、市町など様々な機関と情報を共有しながら対応した。今後、第4波が来るとして、その中で例えば福祉施設で感染が生じた場合、病院の病床で対応できない状況になることも考えられる。その場合、その福祉施設で対応せざるを得なくなる。そうしたことも念頭に置かなければならない。今後も関係機関と協調し情報を共有しながら対応を進めていくことが重要になる。

7 閉会

【以上、終了19時45分】